

第6号 バージャー病NEWS

2012年12月20日発行
発行：NPO法人バージャー病研究所
〒302-0118
茨城県守谷市立沢980-1
TEL 0297-47-9955
FAX 0297-45-4541
http://www.keiyu.or.jp
E-mail:vascular@keiyu.or.jp
発行者：岩井武尚
編集：小笠原純子・宮口順一

解明進む「難病・バージャー(ビュルガー)病」 その有効な治療法とは？

バージャー病の患者さんが受ける、もつとも有効、かつ安全な手術は交感神経遮断術です。

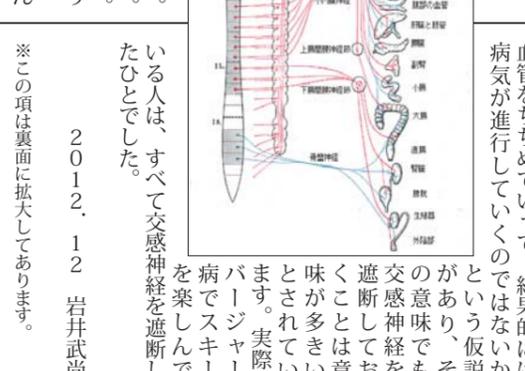
交感神経は、脳からの自律神経繊維が、腰や胸の椎体近くで目に見える節(小豆の粒くらい)を作っています。手術による遮断(切除)が可能です。写真を見ても下さい。紡錘形で、腰から胸まで両側に各15個くらいが並んでいます。



(図) 神経節のまわりで脊髄から出てくるのを節前繊維といいますが、神経節より外側の繊維を節後繊維とよんでいますが、この遮断術ではこの両方を切って節を取り出します。

それでは交感神経や副交感神経の二つからなる自律神経について簡単に話しておきましょう。交感神経は車や電車、エレベーターの役割、副交感神経はブレーキの役割を言われています。また、昼間は交感神経、夜は副交感神経が優位にはたらく体のバランスをとっています。この反応は体にある60兆個の細胞全部に作用しますから、体調におおきな影響がでることが理解できると思います。ただし、運動神経や知覚神経と違って、自分の意志で自律神経はコントロールできません。たとえば、汗が止まるといって、Aさん、Bさんに限りかかります。Aさん

の瞳孔は大きくなり、心臓の鼓動は早くなります。血圧は上がり、呼吸は速くなります。消化管の活動は停止します。この状態は、交感神経が活発に働いていることを意味します。喧嘩が終わるとAさん、Bさんが仲直りします。すると、おなかが減り、呼吸・心臓はリラックスして正常となり、副交感神経が優位の状態になります。



2012. 12 岩井武尚
※この項は裏面に拡大してあります。

なエピソードがあります。毛の少ない日本人ではあまり立毛筋の事を考えたり、目に見たりすることは少ないのですが、差別用語で「毛唐」といわれる人たちは、背中が波打つように動くようです。白人ではありませんが、かの高見山という相撲取りの後ろに座っていた人が目撃した話です。行司に自分の名前を呼ばれたとき、交感神経が興奮したので、立毛筋がはたらき「ばさっ」と背中の毛が波打ったそうです。

かくして、交感神経節をとりだして遮断を行うと、血流は増えて手足の温度は上がり(3〜4度)、汗は少なくなり歩きやすくなります。筋肉内の血流は増えませんが、歩きやすくなった分、筋力が弱ります。肉内の血行の改善が期待できます。さらに、バージャー病で詰まった動脈の血栓には交感神経が再生してきます。その交感神経が手足の他の血管をちぢめていくのでは、結果的には病気が進行していくのではないかと懸念されています。

今回、タイ側からは、タイにおけるバージャー病を診断する上での基準や、患者数が減少傾向にあることが報告されました。日本側からは、治療を受けた患者さんの紹介や、体に負担のかからない検査技術の報告がなされました。また、歯周病との関係はフォーラムを通して大きく取り上げられ、バージャー病をいじめとされる様な病気が再認識されています。今回は、全部で7題の講演で、打ち解けた雰囲気の中で、昨年以上に活発な議論が行われ、次回へのバージャー病の研究の展開を目指していくことになりました。

★手術が終わって今どんな感じですか？
手術は軽い気持ちで受けましたが、術後おなかの傷(6センチくらい)。(写真)

★交感神経節切除の手術を決めた理由を聞かせてください
まだ若いし、さらなる改善を得たいと思うようになったからです。寝ているとき左足がやけに冷たいことや、歩くことは頑張ってきましたがABI(足関節圧/上腕血圧比)が思ったよりあがらないこともストレスでした。

★手術後の経過
手術後、おなかの傷は癒えました。足の冷えも改善されました。歩く気もよくなりました。

★アジアのバージャー病をたずねて(その3)
2011年6月にタイ・チェンマイで第1回を開催した「バージャー病フォーラム」。今年も「第2回バージャー病フォーラム」として、病研究センターとタイのバージャー病研究チームの協力で開催することができました。

★病気の異常に気付いたきっかけは何でしたか？
初めは、歩けないのは腰から来ているのかなと悩みましたが、巻き爪がなかなか治らなかつたこと、足の色がわるいことなどがきっかけでした。冬の間は特に足裏の冷たさや痛みがこたえました。

★27歳の歯周病専門医の報告では、年齢に比べて歯周炎の発症が早い。特に奥歯(7番) 2本に4ミリ以上の歯周ポケット(重症)があり、その他白歯にも3ミリ程度のポケットがあると記載されています。

★近赤外線蛍光検査
「赤外線」と聞くと何を思い浮かべますか？赤外線ヒーター？携帯電話の赤外線通信？赤外線は人体を透過することが知られており、当院ではこの性質を利用して血流を観察する検査を行っています。インドシアングリーン(ICG)という緑色の薬は体内で蛍光を発するので、その光を近赤外線カメラで観察すると微小な動脈や静脈、毛細血管内の血流を観察できます。これはバージャー病の患者さんに腰部交換神経節切除術という手術で足の血流を増やす治療を行った前後の検査写真です。血流が増えることでICGが多く流れるために光が強くなります。

★私は「うしろ」今がある
今回の対談は、TNさん32歳男性です。22歳頃左足の歩行困難に気付きました。当時100メートルほどの歩行で左のふくらはぎに痛みが生じたようでした。診断後、最近3年間ほどは、つば血管センターに通っていますが、禁煙にも成功していません。そして、さらなる症状の改善をめざして、この秋腰部交感神経節切除(遮断)術をうける決心をしました。

★手術後の経過
手術後、おなかの傷は癒えました。足の冷えも改善されました。歩く気もよくなりました。

★近赤外線蛍光検査
「赤外線」と聞くと何を思い浮かべますか？赤外線ヒーター？携帯電話の赤外線通信？赤外線は人体を透過することが知られており、当院ではこの性質を利用して血流を観察する検査を行っています。インドシアングリーン(ICG)という緑色の薬は体内で蛍光を発するので、その光を近赤外線カメラで観察すると微小な動脈や静脈、毛細血管内の血流を観察できます。これはバージャー病の患者さんに腰部交換神経節切除術という手術で足の血流を増やす治療を行った前後の検査写真です。血流が増えることでICGが多く流れるために光が強くなります。

★近赤外線蛍光検査
「赤外線」と聞くと何を思い浮かべますか？赤外線ヒーター？携帯電話の赤外線通信？赤外線は人体を透過することが知られており、当院ではこの性質を利用して血流を観察する検査を行っています。インドシアングリーン(ICG)という緑色の薬は体内で蛍光を発するので、その光を近赤外線カメラで観察すると微小な動脈や静脈、毛細血管内の血流を観察できます。これはバージャー病の患者さんに腰部交換神経節切除術という手術で足の血流を増やす治療を行った前後の検査写真です。血流が増えることでICGが多く流れるために光が強くなります。

告知板：第16話 バージャー病を鑑別診断する。

かつては、足が腐るとすぐ「バージャー病」と診断する傾向がありました。20から30年前でしょうか。その理由は、重症なバージャー病が多かったこと、鑑別する病気が少なかったこと、診断技術が遅れていた

ことなどです。しかし、現在では重症バージャー病の減少、メタボに代表される栄養の欧米化、診断法の進歩により様相が変わってきました。厚労省の指定難病であるバージャー病の認定を受けるためには、いくつかの鑑別診断の壁をクリアしなくてはなりません。

①膝の動脈が異常筋肉で圧迫され、運動をすればするほど動脈が詰まって、歩けなくなる病気があります。膝窩動脈捕捉症候群

②次は、あの歌手村田英雄さんが足を切断した病気です。日本には予備軍を入れると1620万人いると言われる病気です。足の血管、腎臓、神経、目などが一緒に冒されて、人生が強いられず。(糖尿病性壊疽)

③多分、今もつとも多い足の動脈の病気です。長年の栄養とすぎ、運動不足、喫煙などが、生まれて50年もすると動脈をだめにしてしま

注：対談は、終わりましたが、左下肢には大伏在静脈全体の逆流があります。これはバージャー病患者の特徴の一つで、われわれの研究では75%の人が静脈の異常をかかえています。ひどくなるとこの静脈瘤をつくり、かゆみや皮膚びらんをつくりま

注：対談は、終わりましたが、左下肢には大伏在静脈全体の逆流があります。これはバージャー病患者の特徴の一つで、われわれの研究では75%の人が静脈の異常をかかえています。ひどくなるとこの静脈瘤をつくり、かゆみや皮膚びらんをつくりま

当法人は皆さまからの寄付金により運営されています。たくさんのご支援、誠にありがとうございます。

■寄附受付口座：筑波銀行 南守谷支店 普通 1057042
■口座名：特定非営利活動法人バージャー病研究所代表 岩井武尚
■事務局連絡先：0297-47-9955 担当/小笠原



バージャー病全国ネットワーク設立へ

バージャー病(B) オール(A) 日本(N) ネットワーク(N) 約してBANN(バン)は、バージャー病の患者さんが、お互いの情報交換・親睦・医療相談・就労相談などに利用しあうネットワークです。まずは、ご自身がネットワークにご参加ください。まだまだ手探りですが、一緒に作っていきましょう。窓口はNPO法人バージャー病研究所です。

スポーツと血管障害の相談室

スポーツをしていて「血管病では？」と気になることがある方、お気軽にお問合せください。

■診療日：第1・3週木曜日 13:00～14:00
※予約制：つくば血管センターへお電話にて0297-47-9955
■担当医師：岩井武尚(つくば血管センター所長・日本スポーツ医学会会員)
■メールでの相談：vascular@keiyu.or.jp
※慶友会つくば血管センターHPからも承っております。